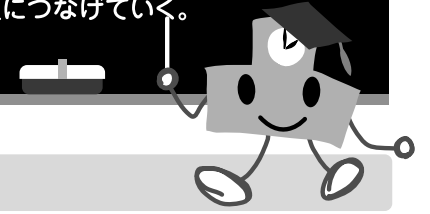


中学校の事例 南区 藻岩中学校

小学校から継続してリサイクル活動を実践。目的を明確化して積極的に活動。

小学校のときに培った環境意識を継続すべくリングプルとペットボトルキャップの収集活動を。まちづくりセンターなどを通じ、地域への呼びかけを行い、啓発活動にも広がっている。目的をしっかりと認識し、さまざまな角度から物事が見られるような取組につなげていく。



内容 生徒会が主体となり 収集活動

本校に入学してくる生徒のほとんどは、小学校でリングプル収集活動を経験しているため、中学生になってもエコに対する意識をもって、生徒会が主体となったリングプルとペットボトルキャップの収集に取り組んでいる。

リングプルは収集用のボトルを生徒会室に設置し、常時回収を行っている。個人が持参するほか、地域の方からも協力があり、郵便局でも半年に一度程度、集まったものを渡してくれるなど、目標とする車いすへの交換に向けて順調に収集が行われている。

ペットボトルキャップ運動は地域のまちづくりセンターに依頼し、町内会の回覧で収集を呼びかけてもらうなど、啓発活動を展開中である。

結果が目に見えることは、意欲につながることで、リングプルが車いすになることや、ペットボトルキャップがワクチンになるなど、目的を明確にすることで、より一層積極的な収集活動が実現できている。

課題としては、収集物の量が多くかさばるため、保管場所の確保が必要という点がある。また、収集したペットボトルキャップに汚れがある場合は職員が洗っている。今後は何らかの対策をしていきたい。



リングプル・ペットボトルキャップ 収集BOX

今後 多くの視点から考える力を身につける

10年ほど前から地球温暖化の問題が取り上げられるようになり、環境についても様々な意見が出てきている。ごみの問題を取ってもコスト面と環境面で表裏があり、「絶対〇〇がよい」という言い方は難しくなっている。ひとつの取組のよい面だけを見るのではなく、

視点を变えて問題点を見つけ、改善方法を検討できる子どもになってほしいと願っている。



教室から出る産業廃棄物

広げよう つなげよう 環境学習の輪

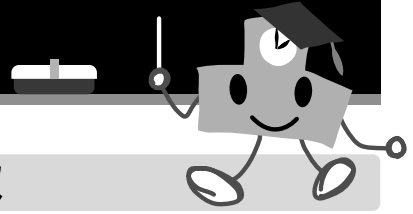
実施校からメッセージ

生徒たちが環境について考えるとき、批判的な意見もまず受け入れるなど柔軟に考え、一つの答えだけでなく幅のある考えをもってほしいと思います。今後については、広い視点を身につけるために、教育大の学生たちとの交流なども考えていきたいと思っています。

中学校の事例 南区 簾舞中学校

生徒会が「エコ大会」を実施、クラスが競い合ってリングプルを回収。

リングプル回収も競い合いながら継続させる。生徒会が企画した「エコ大会」の他、様々な委員会が協力する取組に。生徒の主体性を尊重する環境活動へ。



内容 各クラスにボックスを設置 競い合って回収

本校は平成19年度から21年度まで3年間、札幌市研究開発事業「研究モデル校」として、自ら働きかける環境教育に取り組んでおり、その流れを受けて現在も様々な環境活動を実施している。そのひとつがリングプルの回収活動である。

「二酸化炭素を減らして地球環境を守ろう」という考えから、生徒会がこの活動を「エコ大会」と名付けた。各クラスに回収ボックスを設置して、生徒会執行部が回収。学級ごとに量を集計して10月に行われる学校祭で中間発表し、年度末に向けて競い合って収集活動にあたっている。総合順位1位～3位のクラスには、賞状を授与している。

また、リングプルの回収は、放送委員会が昼の校内

放送で呼びかけたり、文化委員会がエコ大会のポスターを作成して掲示するなど、いろいろな委員会が協力して活動を行っている。平成22年度は、学校全体で20,795.3g回収することができた。



たくさん集まったリングプル

今後 リングプル回収活動から環境全体の意識づくりへ

この活動に、多くの生徒が積極的に取り組んでおり、平成22年度は約20kg、取組み開始から計上すると延べ約52kgのリングプルが回収された。この回収量では車いすと交換するところまで至っていないが、これからも楽しみながら、粘り強く活動していきたいと考えている。

今後は、リングプル回収など、資源物のリサイクルの背景にある環境への意識づけに、より力をいれて努力していきたい。



回収ボックス

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

集めたリングプルをどうするか、現在検討中です。車いす1台分集まってから回収してくれるところや1台分に満たなくても定期的に回収してくれるところなど、回収している団体も様々にあります。これから本校に合った団体を探して、回収をお願いしようと考えています。